

平成31年・令和元年 東広島市の主な出来事



目 次

平成31年・令和元年

- ・「東広島ブランド地鶏生産者組合」の設立 1
- ・ベストプラクティス賞の開始 2
- ・多様な交通モードの実証実験の開始 3
- ・広島大学との「国際的研究拠点東広島の形成に関する協定」の締結 4
- ・元気輝きポイント制度の開始 5
- ・地域すくすくサポートを10の日常生活圏域にオープン 6
- ・有害獣処理加工施設の開設 7
- ・東広島イノベーションラボミライノ+がオープン 8
- ・「安芸津マル赤馬鈴しょ協議会」の設立 9

「東広島ブランド地鶏生産者組合」の設立



令和元年5月、東広島ブランド地鶏の市場化に向けて、生産者間の連携強化を目的とした生産者組合が設立された。令和元年10月からは試験販売を開始している。



「ベストプラクティス賞の開始」



令和元年6月、「東広島市職員行動理念」推進のため、職員の模範的な取組みを表彰する制度を開始した。

【受賞事例】

- ・マイナンバーカード普及（P R 動画作成）の取組
- ・新型コロナウイルス感染症対策への取組（P C R 検査に係る検体採取所の設置及び運営）など



表彰式



「多様な交通モードの実証実験の開始」



多様な移動手段の可能性を探る実証実験として、令和元年8月からカーシェアリング、10月から将来の自動運転社会の実現を見据えたデマンド交通（広島大学循環バス）、11月から生活交通におけるデマンドタクシー交通（入野デマンド交通）の実証実験を開始した。



広島大学循環バス



河内町入野デマンド交通

「広島大学との「国際的研究拠点東広島」の形成に関する協定」の締結



令和元年10月、広島大学と相互の連携を強化し、東広島地域における国際的研究拠点の形成とそれに伴う地域社会の一層の活性化に資するため、協定を締結した。



【連携事項】

- ①イノベーションの創出に関すること
- ②研究力の向上に関すること
- ③教育及び人材育成に関すること
- ④国際化の推進に関すること
- ⑤産学連携拠点の構築に関すること
- ⑥交通アクセスの向上に関すること
- ⑦海外からの研究者や留学生等の生活環境向上に関すること
- ⑧その他国際的研究拠点の形成に伴う地域社会及び広島大学の活性化に関すること

「元気輝きポイント制度の開始」



令和元年10月、市民の健康寿命の延伸を目指して、高齢者を中心とした健康づくり、介護予防活動や地域でのボランティア活動を推進するために開始した。

対象となる活動を行い、「元気輝きポイント手帳」にポイントを1年間貯めることで、報奨金が支給される。

ポイント対象となる通いの場での介護予防活動
(百歳体操)



「地域すくすくサポートを10の日常生活圏域にオープン」



令和元年11月、東広島版ネウボラの構築に向けて、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を行う地域の身近な拠点として、西条北地域、八本松地域、志和地域、高屋地域、河内地域に、地域すくすくサポートをオープンし、全ての日常生活圏域に拠点を整備した。



すくすく赤ちゃん相談会（西条北地域）



オープニングイベント（河内地域）

「有害獣処理加工施設の開設」



令和元年11月、捕獲した有害獣（イノシシ、シカ）の食肉活用拠点施設として、豊栄町に「有害獣処理加工施設」を開設した。

食肉専門店と提携した、ソーセージやベーコン等の商品開発を行っているほか、地域資源としてジビエを活用し、東広島市の地域活性化に貢献する高品質ブランド「栄肉」の確立を目指している。



東広島ジビエセンター



ジビエを活用した料理

「東広島イノベーションラボミライノ+がオープン」



令和元年11月、多様な人材を引き寄せて結びつけることで新たな価値を創造するイノベーション拠点「ミライノ+」を開設した。

「未来の〇〇を創る」というビジョンを掲げ、これに共感する人々が集い、一緒に挑戦していく。



9角形のロゴは、市内9つの町に住む人々の交流をイメージし、そこから生まれる価値が輝きを放つ象徴となっている



ビジョンに共感する人が輪になってアイデアを交えながら、様々な問題をミライノ+から解決することを目指している

「安芸津マル赤馬鈴しょ協議会」の設立



令和元年11月、安芸津マル赤馬鈴しょの生産振興、後継者育成などを目的として行政、農協、民間企業等の協働による協議会を設立した。

【参画団体】

マル赤馬鈴しょ出荷組合、芸南農業協同組合、イオンリテール（株）、広島県、東広島市

【主な活動内容】

安定生産に向けた取組、販売促進、情報発信、加工品開発

